

【施策評価調査】

施策名	2-4-5	学校と地域が連携した子育て		92	施策目的 学校と地域が連携し一体となって、子ども達を健全に育していく体制を整備することで、これからの町を担っていく子ども達のこころの育成を図る。
		※高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	教育部 こどもみらい課	担当	児童福祉担当		施策内容 学校と地域がより密接に関係するために、地域住民やPTAの中から自主的に活動できる地域パートナーを産み出し、学校支援ボランティア等と連携しながら、地域人材を活用した学校のサポート体制が図れるよう支援します。(※「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)
		リーダー	横塚 恵子		
環境変化					

■指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標①: 学校支援ボランティア数1校当り人数(人/校)	平成16年度	計画	6人/2校	9人/3校	12人/4校	15人/5校	18人/6校
	0人	実績	↓ 0	↑ 26人/3校	↑ 194人/5校	↑ 221人/7校	
指標②:		計画					
		実績					
指標③:		計画					
		実績					
◆◆ 指標に関する特記事項 ◆◆							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	20,000	3,100,000	216,000	86,000	
	決算	9,878	2,681,700	164,120	86,000	

■事務事業事後評価 21年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
①もちのきふれあいスクール事業	当初 86,000	関わった地域のおとなの人数	A	施策目的に合致した、非常に意義のある取組みでしたが、活動の規模が年々縮小してしまい、歯止めがかかりませんでした。			
	決算 86,000	12人 / 20人		今後の方向性(自己評価)	終了	今後の方向性(総合評価)	終了
②地域協働団体等支援事業費 ※再掲(生涯学習課の事務事業)	当初 0	ボランティアメッセ参加人数(単位:人)	A	学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てる意識が高まりました。			
	決算 0	122人 / 200人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
③	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
④	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
⑤	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

■施策事後評価 21年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
	地域も学校も各々が主体的に関われる環境を整えることを中心に施策を進めてきましたが、地域と学校の連携は小学校区ごとに様々で、温度差もあり、それぞれの地区に応じたものとなっています。	学校と地域が連携することは大切な考え方だが、これまでの活動状況をみると、地域に根ざした学校が主体的に活動できるよう、行政はコーディネート役に徹するほうが適当と考えます。
総合評価	地域の人材を活用しながら、生涯学習課と連携し施策展開を行ったことを評価する。 学校と地域が連携する考え方は尊重するが、学校支援ボランティアの活動を分析した上で、現在行われている児童館や社協の取組みを把握、精査した上で、役割分担を明確にし、他施策で行われている事業と統合することで、成果を上げるものがあれば統合するなど、施策展開を検討すること。	